

寸言

ミネベアミツミ株式会社
特機事業部 事業部長
石川 宏



航空宇宙産業の発展のために

2017年1月27日、ベアリングなどの機械加工品、モーター、センサーなどの電子機器を主力とするミネベア株式会社は、電子部品メーカーのミツミ電機株式会社を完全子会社化することによって両社の経営統合を行い、社名をミネベアミツミに変更し、新たなスタートをきりました。

当社は、1951年に日本初のミニチュアボールベアリング専門メーカーとして創業いたしました。当社を創業したのは、旧満州航空機の技術者たちで、戦後の民間航空産業の発展に夢を託した起業でした。創業以来、ベアリングだけではなく、モーター、センサーなどエレクトロニクスなどに事業を拡大し続け、現在、当社のロッドエンド・スフェリカルベアリングは世界トップシェア約50%を誇るまでに成長いたしました。他にも、航空機用ファスナーやモーターなど、大型機では700超の当社製品を採用いただいております。防衛航空産業においては、防衛航空機用モーター、アクチュエータ、バルブなどの装備品やポンプ・ラックなどの武装品もご利用いただいております。さらには、H2Bを代表する国産ロケットに、圧力センサー、ソレノイドやスイッチなどをご使用いただいております。

また当社は、創業以来M&Aなどにより、米国の子会社New Hampshire Ball Bearings Inc. (NHBB)を中心に、ドイツのmyonic GmbHやCEROBEAR GmbHと協業して米国向けの航空機、医療用及び産業機器向けのボールベアリング市場の開拓や新しい生産技術の開発をしてまいりました。2017年9月には、株式会社日本政策投資銀行と共同で、米国の精密機械

金属加工メーカーC&A Tool Engineering, Inc. (C&A)の全株式を取得いたしました。

C&Aは航空機分野でもハードメタル系の精密機械金属加工に高い技術を有しており、米国でエンジン関連部品のビジネスを拡大しています。NHBBも米国の航空機分野に多くのベアリングを納入しており、C&Aの製品を取り込むことで、航空機分野で製品レンジが多角化され市場で優位性を得ることができると考えております。

航空機の3大市場である欧州・北米・アジア（日本・タイ）の3極全てで航空機用ベアリングを生産、供給できる唯一のベアリングメーカーとして、今後も航空宇宙産業に携わる皆様の発展に貢献できるよう、邁進してまいります。

経営統合後、2017年のパリエアショーでは、従来の航空宇宙に関するベアリングだけでなく、新たな試みとして、シートベルト用バッテリーレス無線スイッチ（搭乗客のシートベルト装着状態を、クルーの手元タブレットで集中モニタリング）や、自動開閉機構（航空機ラバトリー内ゴミ箱フタをノータッチで開閉できる近接センサー及び小型モーター動力機構）など、ミツミ電機を含めた当社のコア技術を組み合わせた開発品も展示いたしました。

ミネベアミツミは、IoT時代に貢献するエレクトロメカニクスソリューションズのプロバイダーとして、ベアリングに代表される超精密機械加工技術から、モーター、センサーや、半導体、無線技術に至るまで、幅広い先端技術を組み合わせ、常識を超えた「違い」で新しい価値を作り出してまいります。